

◆4番（松井英雄君） 4番、公明党長野市議員団、松井英雄です。

若者雇用認定制度についてお伺いいたします。

UJIターンを考える際に最重要視する項目には、住まいや環境など、様々ありますが、やはり、就業先というのは、生活設計をする中で重要になります。市長も、議会初日の施政方針において、仕事があれば長野に住みたい、帰りたいというニーズがあると確信したと述べられております。長野市においても、おしごとながのなどで市内企業の紹介を開始し、去年は、おしごとながのを長野地域連携中枢都市圏へ拡大し、掲載企業も増えてまいりました。

ブラック企業といった言葉が聞かれるようになり、学生を初め、就職活動をする際に、給料よりも企業の雇用管理の状況などを重視する傾向も見られます。そのような中、若者雇用促進法に基づき、若者の雇用支援に有効な優良企業などの認定制度――ユースエール認定制度が、2015年10月から始まりました。厚生労働省は、このユースエール認定制度に基づき、若者の採用、育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定し、そうした企業に対し情報発信を後押しすることなどにより、企業が求める人材の円滑な採用を支援し、若者とのマッチング向上を図るとしています。

同制度の認定を受けている企業は、昨年末時点で、全国147社、長野県では、長野市篠ノ井の企業が県下初となるユースエール制度の認定を受け、他に、県内2社が認定を受けております。その他、この認定基準12項目のうち9項目を満たしている若者応援宣言企業などもあります。

長野労働局のホームページでも、ユースエール認定制度、若者応援宣言企業の紹介があります。長野市においても、市内への就業促進と市内中小企業と若者のマッチング向上として、そして、優良中小企業を育て、紹介する観点から、ユースエール認定制度を市内企業に周知し、市ホームページで同制度認定企業などを掲載し、安心して市内への就業の場を選べるようにするべきと考えますが、御所見をお伺いいたします。

（4番 松井英雄君 質問席へ移動）

◎**商工観光部長**（久保田高文君） 国が推奨するユースエール認定制度は、若者の採用、育成に積極的で、雇用管理の状況などが優良な中小企業を認定し、若者とのマッチングを積極的に後押しすることを目的としております。若者が、安定した雇用の中で経験を積みながら職業能力を向上させ、働きがいを持って仕事に取り組むことができる社会を築くことは、本市にとりましても大変重要であると認識しております。

若者が適切な職業選択を行うことができ、能力や希望に応じた就職の機会を得ることができることは、UJIターン就職促進事業を進める上でも共通することから、就職情報サイトおしごとながのにおきまして、当初から、子育て応援宣言、スキルアップを応援などの項目を設けまして、企業の取組情報の発信を行ってまいりました。2月末時点で、子育て応援宣言をする企業は90社、従業員のスキルアップを応援する企業は129社の登録をいただき、PRをしております。また、市内のユースエール認定企業は、受賞歴の項目の中でPRをしております。

御質問のユースエール認定制度につきましては、まだ制度が始まったばかりでありますので、様々な

機会を通して、企業の皆様に向けて、この制度の周知に努めてまいりたいと考えております。

◆4番（松井英雄君） ありがとうございます。

制度が新しいということではありますけれども、市が先導して優良中小企業を育てる意味からも、是非とも、様々な企業にこのような制度があるということで、働き掛けをよろしくお願ひいたします。

続きまして、公共施設の市民ワークショップについてお聞きします。

昨年、市民合意形成に向けた取組として、芋井地区をモデル地区と選定し、4回の市民ワークショップを開催し、施設の再編・再配置の検討を行ってきました。その後、芋井地区公共施設整備検討委員会が発足しました。この検討委員会の構成メンバーはどのようになっており、今後どのように進めていくのかお聞かせください。

平成29年度は、芋井地区をモデルにした市民ワークショップを他地区に展開し、市内10地区程度を選定し、市民ワークショップを開催するとお聞きしています。平成29年度、市民ワークショップを開催予定の10地区は、どんな基準で選び、どの地区で、いつ頃になるのかお聞かせください。

また、来年度より3年間で32地区で展開する予定の市民ワークショップですが、平成29年度開催した地区は優先に前進し、平成31年度開催では遅れたと思いがちになります。この順番に関する優劣は、あつてはならないと考えますが、お考えをお聞かせください。

昨年モデル地区となった芋井地区では、前橋工科大学の堤准教授がワークショップのアドバイザーになっていただき進めてまいりました。堤准教授の研究室 RISTEX と、昨年11月より3年間の共同研究に関する連携協定を締結しました。このことから、平成29年度の10地区のアドバイザーは、堤准教授を初め、研究室の方が行うのか、アドバイザーについてお聞かせください。

さきに述べたように、市民ワークショップ参加者は、高校生や大学生、働いている方、高齢者の皆様を初め、できるだけ幅広い年齢層や職業の方が参加し、将来の我が地域において検討を重ねることが重要になります。市民ワークショップへのメンバーの確保、周知はどのように行うのかお聞かせください。

◎総務部長（小川一彦君） まず、市民ワークショップ開催後に発足しました芋井地区公共施設整備検討委員会の構成メンバーにつきましては、住民自治協議会の会長を座長として、市民ワークショップのメンバー14人を基に、新たに、地元区長、保育園、児童センターの所長などを加え、合計25人の委員で構成をしております。

これまでに3回委員会を開催しておりますが、支所並びに公共施設マネジメント推進室の職員が会議に参加するとともに、庁内におきましても並行して検討を行うなど、市民ワークショップに引き続き、地元の皆様と市が一緒になって計画づくりを進めております。なお、同委員会では、本年6月頃を目途に、基本的な再配置の方針案をまとめたいたされております。

次に、新年度から予定しております市民ワークショップの開催地区の選定につきましては、現在候補地区を調整中ではありますが、地域の公共施設の老朽化や地域課題などの状況を総合的に勘案して決定してまいりたいと考えております。

また、市民ワークショップの開催に当たり、参加者の確保や開催日程、会場等の調整などを地区住民自治協議会へ御協力をお願いし、現在、開催時期を含めて調整を行っていただいているところです。

市民ワークショップは、新年度からおおむね3年間で全地区での開催を目指しておりますが、各地区

での開催の順番は、その後の施設整備の時期と関連するものではございません。今後の施設整備につきましては、公共施設の老朽化の状況と財政負担の平準化などを踏まえ、判断していくことになると考えております。

次に、市民ワークショップのアドバイザーとメンバーの確保についてでございますが、前橋工科大学の堤准教授には、プロジェクト共同研究に関する連携協定に基づきまして、アドバイザーとして、専門的、技術的な御支援をいただけるものと考えております。市民ワークショップでは、進行役として、住民と行政の間に立つファシリテーターが必要となりますので、堤准教授を含め、人材確保につきましても進めてまいります。

また、市民ワークショップのメンバーについては、議員がおっしゃるとおり、学生を初め、幅広い年齢層や職業の方に参加していただくことが重要と考えておりますので、地区住民自治協議会に御協力をいただくとともに、地区内の回覧を初め、広報、ホームページ、SNSなどを通じて広く市民の皆さんに参加を呼び掛けてまいりたいと考えております。

◆4番（松井英雄君） ありがとうございます。

まだ調整中、あるいは、アドバイザーについても準備を進めるということで、大勢の皆さんに来ていただく、また、いい市民ワークショップにしていくためには、本当に調整、準備が必要だと思いますけれども、来年度もう開始するというわけでありますので、その周知期間もあると思いますので、早目に、決定したところから地域の皆様にお知らせをしていただければと思いますし、また、芋井地区に関しましては4回の市民ワークショップということでありますけれども、地域によっては、1年、2年とかかる市民ワークショップもあるかと思えます。しっかりとした議論が進むように、ファシリテーターの方、あるいは地域の方と話し合っただけであればと思いますので、是非よろしくお願ひします。

続きまして、スポーツコミッション推進室についてお聞きします。

平成24年3月市議会にてスポーツコミッション設立を提案し、市独自のスポーツコミッションの必要性についても研究していくとの答弁から5年になりますが、長野市においても、来年度よりスポーツを軸としたまちづくりをより進めるために、スポーツコミッション推進室が設置されることになりました。

スポーツコミッションの役割を考えたとき、観光との連携も重要になってきます。スポーツと観光の果たす役割は大きく、その両者が融合したスポーツツーリズムの推進は不可欠であると考えます。スポーツを活用したまちづくりで新しい観光価値の創造を図っていくためには、宿泊施設、観光施設、交通機関、旅行会社、飲食店、商店などの企業や観光協会などを代表とした観光団体とスポーツ団体との連携、協働を効率良く機能させることが必要です。また、大規模なスポーツ大会など、魅力あるコンテンツづくり、大会、合宿の誘致、プロスポーツの誘致など、スポーツツーリズムを担う連携を観光都市長野のまちづくりの一環として政策に位置付け、強力に進めることが必要と考えます。

今後のスポーツコミッション推進室の役割、観光との連携をどのように進めていくのかお聞かせください。

◎文化スポーツ振興部長（倉石義人君） 平成24年3月に御質問を頂いてからこれまで、本市では、長野オリンピック・パラリンピック開催による有形無形の財産を生かし、スピードスケートのワールドカップやNHK杯国際フィギュアスケート大会、アイスホッケー全日本選手権大会、なでしこジャパン国

際試合など、各種国際大会や全国大会を誘致、開催しており、先頃も、本年6月に、ホワイトリングで東アジアバスケットボール選手権の開催決定という成果を上げることができました。また、今年で10回目を迎えた全国中学校スケート大会においては、全国から選手、役員、選手の御家族の応援等、毎年約1,000人が本市にお越しにきており、その経済波及効果は、4日間で2億5,000万円に上るなど、冬場の観光閑散期に、宿泊や食事、交通など、本市にとって大きなメリットがある大会に育っております。同様に、今年で19回目を迎えます長野マラソンは、参加申込開始後20分で1万人の定員に達するなど、全国有数の大会となっております、1回で9億5,000万円の経済効果が見込まれます。

このほど策定いたしました第二次長野市スポーツ推進計画においては、新たにスポーツを通じた交流拡大の推進を施策に位置付け、国際大会、全員大会の誘致、開催とともに、宿泊滞在型のスポーツイベントの促進を掲げ、観光や産業との連携について特徴付けております。

このようなスポーツによる産業振興や観光への貢献といった特徴を生かしていくことが重要と考えており、この方向性を充実強化していくため、スポーツ課内にスポーツコミッション推進室を設置いたします。室の役割としましては、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた合宿の誘致や、全国大会を初めとするスポーツコンベンションの誘致推進、さらに、AC長野パルセイロなど地域密着型プロスポーツチームとの連携など、スポーツを通じた交流人口の増加や地域活性化を図ってまいります。

実施に当たりましては、ながの観光コンベンションビューローとの連携を深めていくことで、宿泊施設や交通機関といった大会誘致に欠かせない機能の面でも、主催者との調整や対応がよりスムーズになると考えており、併せて、競技団体や県のスポーツコミッションなどとの連携を深めながら進めてまいります。

◆4番（松井英雄君） ありがとうございます。

今まで、ながの観光コンベンションビューローが中心に幾つもやっていたものが、今度はスポーツコミッション推進室という形で、市がしっかり関わってやっていくということでございます。交流人口の拡大ということでも、スポーツと併せたことでありますので、非常に期待しているところでありますので、どうぞよろしく申し上げます。

続きまして、南長野運動公園でのコンサートの開催についてお聞きします。

昨年の9月定例会で、南長野運動公園長野オリンピックスタジアムでの昼間のコンサート開催を提案したところ、部長より、コンサートは交流人口の増加や地域の活性化の効果も大きいことから、地域の意見の成熟状況を見ながら、コンサート開催の可能性について検討してまいりたいと考えておりますとの答弁を頂きました。その後、検討はまだ早いかなと思いつつも、スポーツ課に問い合わせると、相談に応じ実施するとのことでした。早い決定に、地元の皆様とも話す中で、大変地元も喜んでおります。市長の早い決断に感謝をいたします。

現在、オリンピックスタジアム指示事項4のスタジアム規制事項では、過去に騒音問題が発生したことから、一切の施設使用は認めないとあります。この規制事項をどのように変えるのかお聞かせください。

また、市が長野オリンピックスタジアムで昼間のコンサートの間口を開いたことに、地元篠ノ井でも、昨年のエムウェーブでの嵐のコンサートのときのように、大勢の方が篠ノ井駅から歩き、地域活性化に

なると喜び、期待をしているところです。そこで、コンサートなどのイベント会社にどのように周知し、招致していくのか、その都度相談に乗るのではなく、マニュアルも作らなくてはと思いますが、どうなるのかお聞かせください。

◎文化スポーツ振興部長（倉石義人君） 長野オリンピックスタジアムにつきましては、平成13年に開催したコンサートについて、騒音などの苦情が多数寄せられたことから、その後、同スタジアムでは、コンサートについては使用しないこととしております。しかしながら、地元の皆様がコンサートの開催により地域の活性化につながると期待をお持ちということであれば、影響が小さいと思われそうです。土日、祝日などの昼間のコンサートの開催は可能であると考えております。

ただし、実現に向けた課題といたしましては、長野オリンピックスタジアムは、シーズン中の土日、祝日は、様々な大会や試合などでの利用の希望が多く、競技団体との調整に苦慮している状況があります。また、長野Uスタジアムで行うサッカーの試合と重なる場合は、周辺の渋滞や駐車場について大きな混乱につながることも想定されます。さらに、昼間といえど、どうしても音の問題は切り離せない課題でありますので、地元の皆様が前向きに御理解いただくことが前提になると考えております。

これらのような課題もございますので、まずは、コンサートの開催に伴うメリットや課題などを含め、住民自治協議会など地元の皆様の意見等をお聴きする機会を設け、開催の可能性を探りながら試験的に実施していく必要があるものと考えております。その上で、問題がなければ、コンサート開催に向けた具体的な方法等を詰めてまいりたいと考えております。

また、コンサートに限らず、他のイベントにつきましては、音の問題がなく、受け入れやすいため、今後広く取り入れられるよう、指定管理者と協議してまいります。

◆4番（松井英雄君） 試験的に行う、協議をしながらということもおっしゃっていましたが、それにしても、何時までがいいのかとか、そういった問題もあるかと思っておりますので、しっかりとマニュアルを決めるなり、また、イベント会社がホームページ等で見たときに、ここもできるんだということが分かるようにしていただければと思います。もちろん、長野UスタジアムでのAC長野パルセイロの試合開催のときには、両方は厳しいということは承知しておりますし、また、夏場は高校野球等の予選会等も行うということでもありますので、そこら辺は承知はしておりますけれども、是非とも前向きに進めていただきますようによろしく申し上げます。

もう1点、長野オリンピックスタジアムでのコンサート、長野UスタジアムでのAC長野パルセイロの試合観戦、茶臼山動植物園など、長野市南の玄関口となる篠ノ井駅東西自由通路の西側には恐竜公園、動植物園のイラストを描き、東側は全面オレンジ色のパルセイロカラーに染め上げ、篠ノ井駅からわくわくするような視覚を取り入れるべきと考えますが、お考えをお聞かせください。

◎市民生活部長（竹内好春君） 篠ノ井地区では、AC長野パルセイロを盛り上げるため、街中をチームカラーであるオレンジ色に染め上げ、歩いて楽しめるまちづくりを、今年度から、一支所一モデル事業として、篠ノ井地区住民自治協議会が取り組んでいただいております。

取組では、経年劣化が激しいオレンジロードに掲げました応援バナーの更新や、併せて、AC長野パルセイロのフラッグを購入し、応援イベントとして、AC長野パルセイロの選手と共に掲出をいたしまし

た。また、地元有志が中心となりまして、篠ノ井駅から長野Uスタジアムまでまち歩きを楽しんでもらうため、沿道をパルセイロカラーに染めるべく、植栽帯にオレンジ色の花を植えるオレンジロード計画を進めております。

議員から御提案のあります、篠ノ井駅の自由通路をパルセイロカラーに染め上げるというようなことにつきましては、現在、パルセイロ応援ポスターなども掲出されておりますが、1つの取組のアイデアとして、地元にお伝えをしてみたいと考えております。

◆4番（松井英雄君） この18日にも、バナーの取替え等が行われるということで、私も、多分今年もやるかと思えます。また、パルセイロカラーのオレンジのチューリップ、また、マリーゴールドも、私もやらせていただいております。今後も是非とも進むように、よろしく申し上げます。